

---

# 公衆電話と梅雨空と

牧野ケンタロウ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

公衆電話と梅雨空と

### 【Nコード】

N9232C

### 【作者名】

牧野ケンタロウ

### 【あらすじ】

「確かに1つの時代が終わったのだ。」とりこわされた公衆電話と、僕と、そして梅雨空がおりなすショートストーリー。

うちの近所の公衆電話ボックスが最近取り壊された。

これも1つの時代の終わりなのだろうと、缶ビールを買って、コンビニから帰る途中にそいつを眺めて、小さく吐き捨てた。

…そう、1つの時代が確かに終わったのだ。

今日はよく雨の降る一日だった。梅雨空は最後の力を振り絞り、雨の一滴一滴を落としているのかと思うくらい、雨らしい雨だった。おそらく、セミの声に夏を感じ始めていた僕に梅雨の存在をアピールしなかったのだろう。嫌われ者の梅雨空は意外と寂しがり屋なんだと思うと、この雨模様は多少滑稽に映って見える。

そんなことを考えていたら、ふと昨日の彼女の言葉が胸を横切った。

「この先のことを考えてる？私のこと考えてる？私は…、私はね、ただ安心が欲しいだけなの。」

安心？甘えた事言うなよ、ふざけるな！感情的にそう言い放った。安心なんて手に入れられるものなら、手に入れたと思うくらい、自分の夢を追いかけることは不透明で、はるかに険しい道なのだとこの年になってようやく分かった。「安定した暮らし程くだらねえものはねえよ。ほら、あのサラリーマン見てみるよ。こんな昼間からあんなに腐った目をして。安定した奴は、みんなあんなつまうんだぜ。」遠い昔に感じていたことは自分の青さのせいだった

と今はつきり分かる。安定を求めることは決して人生の逃げ道ではない。だから、彼女の気持ちも良く分かる。ただ、自分自身、ここまですべてきて、今更あとに引けないだけだ。自分のアイデンティティなんてものにしがみつけないと、時々、自分が分からなくなってしまう。

「甘えたこと、ふざけるな、か…。」

そう呟いて、彼女は部屋から出て行った。

今朝起きると、携帯に一通のメールが届いていた。

『これ以上不安を抱いて生きていくのはもう無理みたい。今までありがとう。最後にこれだけは言わせて、私が好きだったのは夢を追いかけていたあなたで、夢にしがみついているあなたじゃないの。』

メールをゆっくり時間をかけて反芻した、しばらくして聞こえてきたのは雨音だった。気象庁の梅雨明け予想って今日じゃなかったわけ…。カーテンを開ける、街や人やいろんなものがいつものように動き始めていた。

取り壊された電話ボックスの残骸の、その色褪せた緑。

1つの時代が終わる瞬間、そこには色褪せた何かが数多く散在して、次第に昔の面影は微塵もなくなっていく。彼女が最後に僕に伝えた

言葉すら、いずれ色褪せていくのだろう。1つの時代が終わる事で始まる新しい時代…、今はそいつが輝いてくれること、そのことを願って電話ボックスは色褪せてゆくのだろう、多分、いや、きっとそうなんだ。

小さく肯いて、湿気分だけぬるくなった缶ビールを片手に家路に向かった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9232c/>

---

公衆電話と梅雨空と

2010年10月15日01時14分発行